

発言表

決算行政監視委員会

白石洋一君（立憲）

加藤 財務大臣

鰐淵 厚生労働副大臣

会計検査院

会計検査院 原田院長

政府参考人

内閣官房 寺岡次長

内閣府 松家次長

厚生労働省 山田職業安定局長

国土交通省 鶴田物流・自動車局長

◇この議事速報（未定稿）は、審議の参考に供するための未定稿版で、一般への公開用ではありません。
◇後刻速記録を調査して処置することとされた発言、理事会で協議することとされた発言等は、原発言のまま掲載しています。
◇今後、訂正、削除が行われる場合がありますので、審議の際の引用に当たっては正規の会議録と受け取られることのないようお願いいたします。

○鈴木委員長 次に、白石洋一君。

○白石委員 立憲の白石洋一です。

ある地域で、企業が存在感が非常に大きいところで、事業再構築、解雇も含むいわゆるリストラをしたら、これは大変な人数の方がハローワークに駆け込むことになると思うんですね。実際、私の選挙区であります四国中央市であるとか、あと西条市でもあります。この四国中央市の件については、非常に大きな事案で報道もされましたので、今年二月二十一日に厚労省にもお願いしたところではあります。

こういう企業城下町での大規模な解雇を含むリストラがある場合は、そのハローワークだけで対応するんじゃないかと、近隣のハローワークやあるいはその労働局、私のところであれば愛媛労働局、そこから応援が来て総がかりで対応していただきたい、このように思うんですけども、いかがでしょうか。

○鰐淵副大臣 お答え申し上げます。

白石委員の御指摘のような、事業縮小等により

一度に多くの方が離職を余儀なくされた場合は、再就職支援窓口を設置するとともに、雇用保険の基本手当受給に係る集団受付会の開催など、きめ細かな対応を行うこととしております。

また、管轄のハローワークに対しまして、労働局及び近隣のハローワークから職員を派遣しまして支援体制を強化するなど、求職者の再就職に向けた支援に万全を期しているところでございます。さらに、ハローワークを利用する求職者の職業

相談及び職業紹介は、住居所管轄以外のハローワークでも利用が可能となっております、ホームページや雇用保険窓口で日頃から周知をしておりますが、今後もしっかりと対応してまいります。

○白石委員 是非お願いします。

報道される場合は対応がしやすい。しかし、報道されないような大がかりなリストラもあります。でも、ハローワークには情報が来ていると思うので、そういう場合は、私がこうやってこういう国会の場でお話ししなくても、自動的にそういう対応をしていただく。

そして、本当にストレスが高いときに、ハローワークに行つてストレスがより高まるということがないように、先ほどおっしゃったように、自分の住地のハローワークじゃなくても、自分が就職したいところでハローワーク、求人登録ができるということを丁寧に伝えていただくということをしていただきたい。

そして、こういうリストラが起きて、自分の年齢から、面接もしてくれないという声が聞かれます。しかし、年齢によって面接もしない、最初か

ら足切りをするというのは、これは原則違法です。それを徹底していただく。年齢不問であるということがまず原則であつて、年齢不問じゃないというのは相当何かあるんじゃないかなと、そこはチェックしていただきたい。本来の例外というのは本当に限られたところだけれども、しかし、雇用主、事業主によってはそれを拡大解釈しているんじゃないかというふうにも思われますし、一方、年齢不問としながらも、実際は足切りで、会いもしないということも多いと思います。

でも、このところをちゃんとスムーズにして、面接さえすれば、お元氣な年配の方もたくさんおられますので、今の全国で起こっている人手不足、これの解消にも役立つと思うんです。

その辺、御所見をお願いします。

○鰐淵副大臣 お答え申し上げます。

労働者の募集及び採用に当たりましては、労働施策総合推進法に基づきまして、例外的な場合を除き、委員がおっしゃったとおり、原則として年齢制限を禁止しております。このため、ハローワークでは、求人受理に当たりまして年齢制限の有無を確認するとともに、年齢制限がなされている場合には、具体的理由を確認の上、行っております。

また、求職者からの申出等によりまして、求人の内容が実際と違つていたという場合には、必要に応じて、ハローワークから企業に事実確認を行い、是正指導を行うとともに、また、是正されない場合には職業紹介を保留するなどの措置を講じております。

【2】令和5年度予備費：突発的災害ではない、政策的予算は、急ぐものでも補正予算で国会審議を受けるべきで、予備費は予算も支出も絞るべき！

令和七年五月十九日

【衆議院】 決算行政監視委員会議事速報（未定稿）

引き続き、求職者の応募機会が確保されるよう、求人者への周知や指導に努めてまいります。

○白石委員 よろしくお願いたします。

鰐淵厚労副大臣に対する質問は以上でございますので、御退席いただいで結構です。ありがとうございます。

そして、令和五年度予備費について質問します。

令和五年度予備費を使った定額減税に対するいわゆる隙間給付、はざま給付とも言われている部分、この給付も原油価格・物価高騰対策予備費を使っていないんですけれども、これは、この予備費を使わなくても、昨年、令和六年の国会召集冒頭に補正予算として議決、そして使用可能になったものではないでしょうか。加藤大臣、お願いします。

○加藤国務大臣 御指摘の予備費措置は、令和五年十二月、物価高により厳しい状況にある方々を支援するための所得税、個人住民税の定額減税の制度設計が令和六年度税制改正の中で決定し、これと併せて、定額減税の恩恵を受けられない方々にも必要な支援を行う観点から、低所得者支援、定額減税を補足する給付について成案が得られたことを受けて、住民税均等割のみ課税されている世帯等に対する十萬円の給付など、一連の措置を実施するために予備費の使用を決定したものであります。

この給付事業について、地方自治体が円滑かつ迅速に執行していくために、支給事務や必要な体制整備に係る具体的な見通しを持って一体的に検討、調整を行い、また、法律的に準備、執行を進

めていただくことが極めて重要であり、年をまたがずに、令和五年の十二月中から円滑な執行に向け、一体的な準備を迅速に実施することができるようにとの観点から、補正予算の編成では対応せず、十二月中の予備費の使用を行ったものでございます。

○白石委員 十二月に決定した。でも、その十二月には、臨時国会が十二月十三日まで開かれていて、そこでの補正予算も可能だったんじゃないかというふうにも思うわけですね。あるいは、通常国会というのは翌月、一月二十六日、そこで、冒頭申し上げたように、補正予算にして可決を求め、審議を求めるということが本来的な姿であって、そして、地方自治体での準備をしたらというものは、内々、まだ決定していないけれどもということではよかったですか。加藤大臣、いかがでしょうか。

○加藤国務大臣 まさに一日も早くそういう方々にも給付が行くようにという要請が一方であり、また、地方公共団体も、内々というお話もありましたけれども、やはりきちんとした体制で、どうした予算が今後ついてくるのか、そうしたところを見極める方がより一層準備に取りかかりやすいというところはあるというふうに思います。そういったところも含めて、十二月中の予備費の使用を行ったところでございます。

○白石委員 一刻も早くというのであれば、だったら、その前の年の補正予算にすればよかった。それがちょっと遅れたら、一刻も早くしないといけないから予備費だというように言い方、それを

もつと前にできませんかと言ったら、準備ができないというふうにする、それは余りにも御都合主義の理由づけじゃないかなというふうに思うわけです。

やはり国会での審議を回避しようとするんじゃないで、基本は補正予算なりで、こういう審議の場で認めてもらうということを基本にする、これが憲法八十三条、財政民主主義なんじゃないかと思うんですけれども、大臣、いかがでしょうか。

○加藤国務大臣 予備費の使用について、あるいは補正予算でやるのか、どう選択するかという御議論なんだろうというふうに思います。

それはそれぞれの事情の中で、より適切な、もちろん国会での議論ということもあると思います、それから、例えば今の話でいえば、執行を早くしなければいけない等、場合によっては予備費そのものがあるのかなのかという場合もあるのかと思います。

そうした様々な事情を勘案して、より適切な方法を判断するということが大事だろうというふうに思います。

○白石委員 大臣、より早くやるということであれば、先ほど再三申し上げているように、その前の年の補正予算でやればよかった。やはり予備費は総額五・五兆円の予算で、それが膨れ上がっているから、それを国会審議なしに使ってしまうという誘惑が働いたというふうにならなくても仕方がないと思います。

次に、一般会計予備費、通常のものであってもこれは言えるわけであって、令和六年一月一日に

発災した能登半島地震に係る予備費の支出。

一回目の一月二十六日決定、これはそうだと思います。しかし、三月一日のものについては、これは国会開会中で、まさに予算審議をしているところ。そして、国会開会中では原則補正予算で対応する、予備費ではなくて補正予算で対応するという二〇〇七年の閣議決定もあるわけです。ですから、これについても、その当時、ファストトラックで、優先的に補正予算をつくって、それを通せばよかったというふうに思います。

次に申し上げたいのは、特別会計の予備費。

これは先ほど柚木委員も言っておりましたけれども、積んでいる金額からして、使用実績が余りにも少ない。それをただで積むことができるのかというところではなくて、積むだけであっても、その由来の財源を確保しないといけない。例えば税金であったり、あるいは保険料であったり、一般会計から繰入れをしているのかもしれない。もしこれだけ使わないで不用額にするのであれば、その分、税率なり保険料率なりを引き下げれば、あるいは一般会計に返すべきだというふうに思うんですけれども、大臣、いかがですか。

○加藤国務大臣 先ほども御答弁させていただきましたが、各特別会計の予備費は、事業を行うに当たって、予見し難い予算の不足に充てるためにそれぞれ所要額を計上しているわけでございますので、もし、例えば計上しないという中で何か起こった場合はどうするのかという問題が当然あるかと思えます。

他方で、計上しているお金についても、全く運

【3】 会計検査院・検査報告の概要説明は、今後の政策策定や執行に資すると思われるものがよく伝わるように説明して欲しい

用しないで持っているわけではございませんので、これはちよつとそれぞれの特別会計、いろいろあるろうかと思いますが、それぞれの中でより効率的な運用も図られているものと承知しておりますし、仮に残が出てくれば、それは翌年度の予算の中で必要な対応が図られているというふうに認識しております。

○白石委員 積んでいるだけではない、運用もしているということなんですけれども、それだっただけでほしい。税金で取っている、由来はいろいろあるでしょうけれども、それぞれを、料率を引き下げるとか、あるいは一般会計に返すとか、そういうふうにするべきじゃないでしょうかというふうに申し上げたいというふうに思います。

そして次は、会計検査院の概要説明について、会計検査院長に質問します。
検査報告の概要説明なんですけれども、これだけ精緻に検査をされた説明にしては非常に素晴らしいものであって、もったいないと思うんです。概要説明は、もつと我々国会議員であるとか、あるいは省庁について、そして一般の人、国民に対して、こういうふうな課題意識があつて、そしてこういう改善をしませんか、そういう説明があつてしかるべきだと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○原田会計検査院長 お答えいたします。
委員の御指摘は、先日御説明申し上げた令和五年度決算検査報告等の概要説明につきまして、委員会での審議により資するよう、分かりやすい説明をするべきではないかといった御趣旨であると

【4】 国債利払い費は毎年1兆円余らせて、不用額を経由して他の用途に使われているのを是正を!

理解しております。
令和五年度決算検査報告の概要説明等につきましては、検査報告が大部にわたり、御説明する時間にも限られていることを踏まえて、内閣から送付を受けた国の収入支出の決算の確認の結果と検査報告に掲記した検査の結果等を端的に説明させていただいたものです。

いずれにいたしましても、概要説明につきましては、委員会の御審議に資するよう、引き続き努めてまいります。
○白石委員 是非委員会の質疑に資するように、それで何を言いたいのか、何をすればいいのか、そういったところを示唆する。ですから、会計検査院ののりのぎりぎりのところまで持ってきた形で説明していただければ、これだけ精緻な検査をされているわけですから、より生かされるんじゃないかなというふうに思います。

次は、国債利払い費の予算についてです。
これはお手元の資料にもありますけれども、国債利払い費の推移というのは、予算と決算が大幅に乖離している。大体一兆円ぐらい残して、これを補正予算の財源にしたり、決算不用額に回したりしているわけですね。見込みが余りにも現実離れしているんじゃないか、もつと実績を踏まえた利払い費の予算策定をすべきじゃないかと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○加藤国務大臣 国債の利払い費については、毎年度設定する積算金利を踏まえて算定し、予算計上しております。
積算金利は、将来への金利動向を正確に見通す

ことが困難な中、従来から、国債の利払い財源が万が一にも不足することがないように、十分な予算計上を行う観点から設定しております。

令和七年度予算における積算金利である二・〇%について申し上げますと、直近一年間の長期金利の平均が〇・九%であったこと、また、今後の金利上昇に備える趣旨から、過去に一・一%上昇した例があることを勘案して設定したものであります。

国債の利払い財源に不足を生じさせないという観点からも、適切な見積りをしているところでございます。

○白石委員 一・一%上昇が前年の十二月に起こったと仮定して計算しているんですね。それでも一兆円もの差額が出ている。これは、特別会計のうち、外為証券が三千億とありました。それにも関わることで、もっと利率の見込みを現実的なものにする。余りにも、毎年一兆円差額が出る、余らせるということのないようにしていただきたい。もつと絞った予算策定をしていきたいと思えます。終わります。ありがとうございます。